

⑭^{ちくほう}筑豊の炭鉱経営者が増改築を重ねた意匠優秀な和風住宅

(近代／住居)

^{きゅういとうけいじゅうたく}旧伊藤家住宅 7棟

^{おもや}主屋, ^{おもてものおき}表物置, ^{どうぐぐら}道具蔵, ^{こつとうぐら}骨董蔵, ^{じむしつ}事務室,

^{しょせいしつ}書生室, ^{ながやもん}長屋門

所在地：^{いづかし}福岡県飯塚市

所有者：飯塚市

旧伊藤家住宅は、飯塚市街の北方、^{おんががわ}遠賀川左岸に位置する。筑豊の炭鉱経営者伊藤傳右工門の本邸として、明治30年代から建設が始まり、昭和時代初期まで増改築を重ねた。



写真提供 飯塚市教育委員会

主屋は、南西の玄関から北へ廊下を延ばし、北の庭園に向かって、^{ほんざしき}本座敷、主人居間及び東座敷（夫人居間）を東方に、食堂、台所などを西方に配置する。複雑な平面は屋根の構成に変化を与え、庭園からの見返しに興味ある景色を供している。本座敷は簡明広壮な^{しょいんざしき}書院座敷、応接室は重厚な洋風意匠とし、豊かな接客空間を有する。土蔵や事務室、長屋門などの付属建物も上質で、意匠優秀な和風住宅として高い価値が認められる。

○指定基準＝意匠的に優秀なもの